

じょうずなおせっかいだより

2024
No. 2

発行：関市生涯学習課

第2回講座

「これからの家庭教育支援に求められていること
～地域で障がい者と共生する時に大切にしたいこと～」を終えて
(講師) 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科 教授 杉山 章氏

6月15日(土)に開催しました第2回講座にご参加いただき、ありがとうございます。ご提出いただいたアンケートをまとめましたので、ご一読ください。

《今回の講座のキーワード(アンケートに複数記述されていた言葉)》

- 人は、変化できる
- 「苦手」でも支援があれば「できる」
- 一歩前に進むために学ぶ
- 学ぶ＝人生を変えるために学ぶ

背中を押してくれるような言葉ですね。

・「人は変化できる」良い方向へ変われるように働きかけを自分に、周りの人にしていこうと思った。

・今の子供・若者たちの一面を垣間見た気がする。社会全体の課題として取り組んでいけたらと思う。障がい者と関わる機会があればと感じた。それぞれの悩みを自分事として考えることができればと思う。

・イタリアでは、障がいのある子ども同じ学校で学んでいて、問題が起きてから社会に出てから当然起こることだからと捉えられているというお話は全くその通りだと思いました。ただ、日本では人と違うといじめの対象になりやすいのではないかと思います。自己肯定感の低さのためでしょうか。子どもたちの成長をもっと褒めてあげたいです。

・「苦手」でも支援があれば「できる」と思えるようになる、という言葉が印象的でした。正しく関われない子がそのまま「できない」を積み上げていかなないように気を付けないと、と改めて思いました。そのための声掛けを現在校内でいかに広めていくかを苦慮しています。最後を「できた」にするために。ゴールとして自立できる子を目指して、またやれることをやってみます。

・地域のコミュニティ力を高めることを考えると障がいがある子を地域で見守る、育てる社会をどう構築するか、ということについて考えたい。人間関係が希薄な今、「支えたい」と思っている人の気持ちをどう拾い上げ、組織化していくのか。イタリアのインクルーシブのメリット、デメリット、地域の共生の実態も知りたい。

第4回家庭教育支援者養成「じょうずなおせっかい」講座

日時：8月24日(土) 13:30～15:30

会場：わかくさ・プラザ学習情報館 2階 ギャラリー

テーマ：「これからの家庭教育支援に求められていること
～「私」の人権から子育てを考える～

私は、困難を抱えた女性の支援を行っています。女性の様々な悩みや生き辛さが、個人的な問題ではなく社会的な問題であることを知った時、「私の生き辛さの原因風景」のパズルが完成したようでした。皆さんと楽しみながらパズルのピースを探し、「私」と「子ども」が共に主体として尊重し合える豊かな子育てを一緒に考えてみませんか。

講師：NPO 法人手をつなぐ女たちの会 理事 片桐 妙子 氏

次回予告

